



1916年創立
今年で104年目です

桃花だより

From TOKAJUKU

〒584-0008 大阪府富田林市喜志2067番地 TEL.0721-23-2076
[E-mail] tokajuku@m3.kec.ne.jp [URL] https://www.tokajuku.com/



桃花塾に おける

新型コロナウイルス感染症 拡大予防・防止対策について

令和2年5月22日 社会福祉法人 桃花塾 医務室

昨年12月以降、世界的な新型コロナウイルスによる肺炎の発生報道を受け、桃花塾ではいち早く対策会議を設け、不足が予想される消毒薬、マスク、防護服、キャップ、ゴーグルなどの衛生用品と食料品の再整備に取り組みました。

国、大阪府、富田林市の行政からの通達が届くようになってからはそれらにのっとり対策を進めてまいりました。



防護服着用例

対策会議では…

- ◆ 社会状況
- ◆ 備蓄状況
- ◆ 利用者さんの外出自粛内容
- ◆ 感染者発生時の初期対応
- ◆ 各部署での感染者発生時の対応
- ◆ 職員、家族に感染者発生時の対応
- ◆ 職員人員不足時の人員配置
- ◆ 毎朝の体温測定の実施
- ◆ 3密を回避すること
- ◆ 丁寧な手洗い
- ◆ マスク着用
- ◆ 換気を心がけ、全職員一丸となって一人の感染者も発生させないという共通認識のもと行動すること
- ◆ 情報を注視してその都度臨機応変に対応すること



などについて討議を行いました。

食事面では外部委託業者と栄養士の間で、感染拡大予防と外部委託業者従業員内での感染者発生時対応について綿密な話し合いを重ねました。

緊急事態宣言発令中は、外出は控え、朝夕の検温や手洗い・消毒を徹底し、ドアノブ・手すりなど建具の消毒を毎日数回実施しています。

感染予防のため、自然豊かで広大な敷地を利用しているプログラムを中心に活動を計画し、食事時間にも時間差を設け、利用者の方々が密に接することを出来るだけ避け、安心して過ごして頂けるように配慮しています。お陰様で現在利用者の方々は体調を崩されることもなく元気にお過ごしです。

今後も政府、大阪府の方針と、桃花塾として社会情勢を踏まえた上で諸々判断してまいります。

コロナウイルス感染者の発生を防ぐため、万全の注意を心掛けてまいりますのでご協力いただきますようよろしくお願い申し上げます。

事務局受付に設置した透明版



社会福祉法人大阪府共同募金会より 配分金を頂戴いたしました

社会福祉法人大阪府共同募金会より、今春、小学校・中学校・高等学校へ進学する入所児に対して、令和元年度NHK歳末たすけあい義援金配分金による入進学祝金の配分を受けました。これは、平成30年度NHK歳末たすけあいによる配分金事業です。

配分額:39,000円
(小・中学部進学3名、高等部進学2名)
受領日:令和2年3月31日

共同募金にご協力下さいました皆様に厚く御礼申し上げます。

後援会入会案内

当法人では、当後援会の趣旨にご賛同いただき、ご支援くださる会員を募集しております。ぜひ当後援会に入会して、私たちの活動にご協力いただけないでしょうか。

◆ 会費 / 1口 500円 ◆ 賛助会費 / 1口 2,000円

事務局：〒584-0008 大阪府富田林市喜志2067 社会福祉法人 桃花塾内

TEL.0721-23-2076

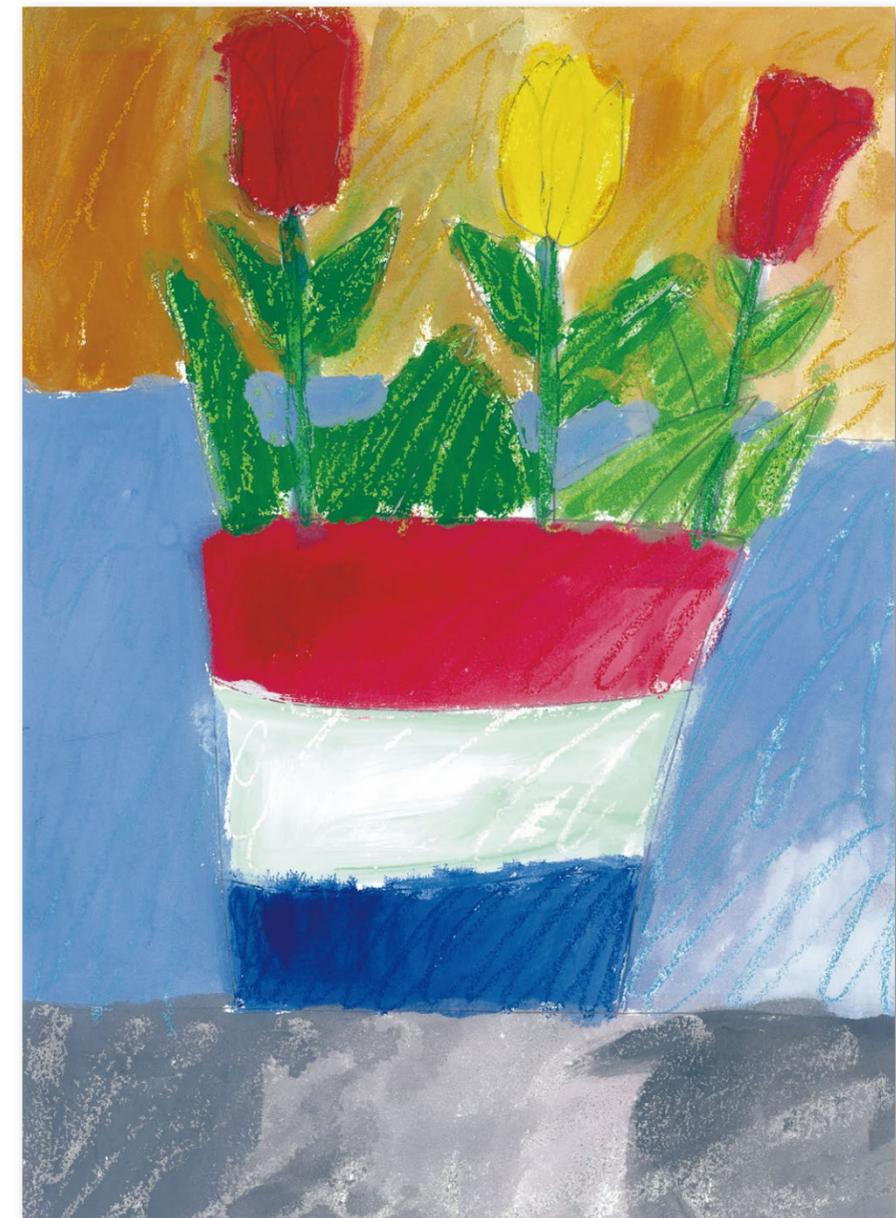
(郵便振替)00940-4-6114

編集後記

今年に入り、思いもよらなかった規模でコロナ禍が広がり、試練の春となりました。桃花塾でも5月開催に向けて準備を重ねてきた「第1回ももフェスタ」が延期、その他さまざまな行事も中止となりました。ようやく緊急事態宣言の解除に伴い、そろそろと新たな日常が始まりつつあります。引き続き感染防止を第一に、日々すべきこと、できることを模索していきたいと思っております。皆様のご健康をお祈りいたします。

編集担当 竹下桂子

令和2年5月31日発行 「桃花だより」第52号 発行元:社会福祉法人 桃花塾



伊藤 学さん 作

困難を乗り越えよう 新しい季節へ

このたびの新型コロナウイルス感染症に罹患された方々、感染拡大により影響を受けている皆様に謹んでお見舞い申し上げます。このような状況の中での桃花塾の取り組みについてご報告します。

児童部



4月7日、大阪府に発令された緊急事態宣言を受け、児童部では子どもたちの身を守ることを最優先に考え、衛生管理に細心の注意を払っています。手洗い、手指消毒、うがい、マスクの着用、施設内の消毒などを徹底しています。子どもたちは外出できず、帰省や面会もかなわず、不安やストレスを少なからず抱えています。そんな気持ちを少しでも軽減できるように、楽しい企画を考えています。

4月20日には子どもに人気のラーメン、餃子、炒飯で「中華バイキング」を行いました。どの味にしようかワクワクとラーメンを選び、目の前で調理した出来立ての料理に「おいしい!」と大喜び。その他にもパンバイキングやクッキング、運動場でのミニ運動会などを行いました。今後も楽しい企画を実施していきたいと思ひます。

第二成人部



4月は利用者の方や職員に新しいメンバーが増え、気分一新でスタートしました。新型コロナウイルス感染拡大防止のための規制の中、利用者の皆さんは元気に生産活動や創作活動に取り組んでいます。お楽しみ「ラーメン屋企画」では、あっさり醤油、札幌味噌、博多風とんこつの中から好きなラーメンを注文し、さらにチャーシューや煮卵、きくらげや高菜漬に紅ショウガのトッピングも。こだわりの絶品を楽しみました。その他、バーベキュー、変わりネタのお寿司パーティー、壁画風巨大鯉のぼりの制作など、おいしく食べて活動を行い、しっかり運動もしています。大変な時期ですが、毎日を笑顔で乗り切っている第二成人部です。



成人部

利用者の皆さんが帰省や外出を控える生活が続く中、できるだけ楽しい時間を過ごしていただきたいとの思いから新たな取り組みを始めました。その中から二つを紹介します。

まずは運動場での「ミニスポーツ大会」。運動不足解消やストレス発散のために、入場行進にラジオ体操、徒競走や玉入れなどを行い、運動会さながらの熱戦が繰り広げられました。もう一つは皆さんが楽しみにされている入浴をもっと楽しくするための「ももの湯」。第一弾の「夏ミカン風呂」では柑橘のよい香りの中、ゆっくりと入浴を楽しまれました。お風呂の後はこれしかない「喫茶ピーチ」にてコーヒー牛乳とフルーツ牛乳をご用意。風呂上がりの牛乳はやっぱり最高です! 次回は「よもぎ風呂」を予定しています。その他にも「青空のど自慢」など楽しいプログラムを提供しています。



通所部

新型コロナウイルス感染拡大の影響は通所部でも顕著です。通所部は地域から通う利用者の方ばかりですので、毎日の検温はもちろんのこと、手洗いの励行、マスクの着用、朝礼や食事提供の分散化、開所時間の短縮などの対策を行い、できるだけ普段の生活が送れるように配慮しています。幸い、農園やリサイクルは屋外での作業で、屋内作業も紙漉きや内職、製菓は少人数で行えます。3密(密閉、密集、密接)を避けるため、皆で仲良く楽しんでいくことができないのは寂しいですが、仲間と共に働ける幸せを喜んでいます。そんな中、通所部開所以来、日差しや雨風にさらされ傷んでいた通所部の顔ともいえるウッドデッキを新調。

毎朝きれいになったウッドデッキを通るたびに嬉しくなります。また地域の皆さんとここで一緒に楽しいイベントができるのを楽しみにしています!



グループホーム



グループホームの生活では感染予防のため3密を避けるべく、各自の部屋で過ごしていただくことを中心にし、居室・共用部分の消毒、換気、手洗いを徹底しています。朝夕に検温・血圧測定を行い、日中サービスと連携をとり、些細な体調変化にも備えています。またマスクの提供など、自ら身体を守るための支援を行っています。そして従来の防災備蓄に加え1か月分の食料を準備し、物流が滞ることも備えています。

ピーチネット



新型コロナウイルス感染拡大防止のため、行政では職員を半数ずつの出勤にしたり、窓口に透明のビニールや衝立てを設けたりと、予防の徹底を図っています。そんな中、DV被害者で障がいをお持ちの方から、特別定額給付金についてご相談がありました。住民票を変更していないが給付は受けられるのか、との切実なご相談です。障がい福祉、子育て支援、給付金担当と市役所内各課のネットワークをフル稼働してもらうために情報を提供し、なんとか相談者の方に安心していただける回答を得られたところです。コロナ禍により相談が複雑化するなど、今後も支援が必要な方々のサポートを行います。

ピーチサークル



児童発達支援事業「ピーチサークル」は平成24年にサービスを開始し、通園する利用児と保護者の皆様に対して、できる限りきめ細やかな支援を実施してまいりました。しかしながら利用ニーズの多様化や少子化等諸般の事情により、令和2年3月末日をもち事業を終了させていただくこととなりました。長きにわたり多くの方々にご利用いただき誠にありがとうございました。

なお、今後の乳幼児の相談につきましては、相談支援事業「ピーチネット」や総合支援・心理研究部にて引き続きお受けしますので、遠慮なくご相談ください。



ジェントルティーチング・コーナー

一桃花塾ではサービス提供の実践の基本をジェントルティーチングにしています。

コロナウイルス禍における人との関わりについて

前回までの「ウィルさんとの出会い」の話を一時中断いたします。

今、世界を席捲している新型コロナウイルスによる感染者の増加は人との関わり方を大きく変えました。かつて私たちが体験したことのない状況となりました。2月3月ごろ、飛沫感染するウイルスと「戦わねばならない」と言われていました。

今日ではウイルスと「共存していかねばならない」と言われています。治療薬やワクチンが開発途上の現在において、ソーシャルディスタンスを十分に取って「3密」になる状況を回避し、できるだけ「stay home」の状態を続け、自粛する生活様式が求められてきました。ここ2か月半を振り返ると、コロナウイルスに関する情報が不十分であることが、人々を不安と恐怖に陥れてきました。自粛生活を続けていく中で、深刻なDVが生じている事実も報道されています。しかしながら、疑心暗鬼、不信感、怒り、恐怖感のみでは人との関係を作っていくことはできません。人との関わりを安心して持続していくことは、生きていく上で非常に重要なことです。

ジェントルティーチングの実践は交わりの感情を確立することです。そのためには、①安心と安全を作り出すこと②愛されること③愛すること④人間的な関わりを持つこと、の4つの柱が必要です。とりわけ、利用者支援のサービスを提供する場においては、今だからこそ適切な距離を取って対話を続け、温かな人間関係を形成していくことが求められます。

対話とは、他の人々の存在を受け入れ、言葉でのやりとり(優しさを表す言葉、声の調子、声の強弱への配慮)、また、非言語でのやりとり(優しさ・温かさを表現するジェスチャー、眼差し、表情、微笑)を通じて人と関わることです。困難な時であっても、温かな記憶を作り出すことは大切です。

理事長 岩崎 正子